

基準地番号	提出先	所属分科会名	業者名	株式会社新光不動産研究所	
武蔵村山(都)-7	東京都	多摩第6	氏名	不動産鑑定士 肥田木 哲志	
鑑定評価額	18,300,000 円		1㎡当たりの価格	132,000 円/㎡	

1 基本的事項

(1)価格時点	令和4年7月1日	(4)鑑定評価日	令和4年7月2日	(6)路線価	[令和4年1月]	105,000 円/㎡
(2)実地調査日	令和4年6月15日	(5)価格の種類	正常価格		路線価又は倍率	倍
(3)鑑定評価の条件	更地としての鑑定評価					

2 鑑定評価額の決定の理由の要旨

(1)基準地	所在及び地番並びに「住居表示」等	武蔵村山市榎二丁目18番2				地積(㎡)	139	法令上の規制等					
	形状	敷地の利用の現況	周辺の土地の利用の状況	接面道路の状況	供給処理施設状況	主要な交通施設との接近の状況	1低専(40,80)高度(1種)						
	1:1	住宅W2	中小規模の一般住宅が多い既成住宅地域	西6m市道	水道、ガス、下水	武蔵砂川2.3km	(その他)						
(2)近隣地域	範囲	東30m、西50m、南40m、北40m				標準的使用	戸建住宅地						
	標準的画地の形状等	間口約12.2m、奥行約11.3m、規模139㎡程度、形状正方形											
	地域的特性	特記事項	特に無し	街路	基準方位北6m市道	交通施設	武蔵砂川駅北方2.3km	法令規制 1低専高度(1種)(40,80)					
	地域要因の将来予測	地域内に価格形成に大きな影響を与える要因の変動はなく、当面は現状のまま推移していくものと判断した。											
(3)最有効使用の判定	戸建住宅地					(4)対象基準地の個別的要因	方位	+2.0					
(5)鑑定評価の手法の適用	取引事例比較法	比準価格	132,000 円/㎡										
	収益還元法	収益価格	/ 円/㎡										
	原価法	積算価格	/ 円/㎡										
	開発法	開発法による価格	/ 円/㎡										
(6)市場の特性	同一需給圏の範囲は、西武拝島線各駅、多摩都市モノレール各駅よりバス便利用の武蔵村山市内及び隣接市の住宅地域であると判断した。物件の総額が取引の指標となる地域であり、新築戸建住宅で2,000万円台半ばから3,000万円程度、中古戸建住宅で1,000万円台半ばから後半である。需要者は、武蔵村山市に地縁的な選好性を有する者や一次取得者である。												
(7)試算価格の調整・検証及び鑑定評価額の決定の理由	比準価格は代替競争等の関係にある取引価格より求められた価格で、本件では同一需給圏内において取引された事例より求められており実証的な価格である。対象基準地の存する地域は、自用の居住目的の取引が多く、収益的な利用を行うことが困難であるため収益還元法の適用は行わない。よって、市場の特性を踏まえ、比準価格を標準に標準地等からの検討を加えて、鑑定評価額を上記のとおり決定した。												
(8)公示価格	代表標準地	標準地	時点修正	標準化補正	地域要因の比較	個別的要因の比較	対象基準地の規準価格(円/㎡)	内訳	街路	0.0	地域要因	街路	0.0
	標準地番号	武蔵村山-4						標準化補正	交通	0.0		交通	-1.0
	公示価格	124,000 円/㎡	[100.0] 100	100 [101.0]	100 [96.0]	[102.0] 100	130,000		環境	0.0	+1.0	環境	-3.0
									画地	0.0	0.0	行政	0.0
									行政	0.0	0.0	その他	0.0
									その他	0.0			
(9)指定からの検討	指定基準地番号	時点修正	標準化補正	地域要因の比較	個別的要因の比較	対象基準地の比準価格(円/㎡)	内訳	街路	0.0	地域要因	街路	0.0	
	武蔵村山(都)-8						標準化補正	交通	0.0		交通	+5.0	
	前年指定基準地の価格	[100.6] 100	100 [102.0]	100 [116.8]	[102.0] 100	132,000		環境	0.0	+2.0	環境	+8.0	
								画地	+2.0		行政	+3.0	
								行政	0.0		その他	0.0	
								その他	0.0				
(10)対年の検討	-1 対象基準地の検討	継続 新規		価格変動状況	[要因]	一般的な [要因] コロナ禍の影響は小さくなりつつあるが、物価上昇の国民生活への影響は小さくなく、今後の経済情勢は不透明である。							
	前年標準価格	131,000 円/㎡				地域 [要因] 木造二階建の戸建住宅を中心とした住宅地域であり、今後も現状のまま推移するものと考えられる。							
	-2 基準地が共通地点(代表標準地等と同一地点)である場合の検討	代表標準地 標準地		[要因]	個別的要因 [要因] 標準的な画地として、特段の変化要因は認められない。								
	標準地番号	公示価格 円/㎡											
	変動率	年間	+0.8 %	半年間	%								